

ダイコン新品種 『春健太(RA240)』の 特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)
千葉研究農場 松井誠二

1.はじめに

春ダイコンはここ10年間に品種改良が目覚しく進んだことにより、晩抽性と作り易さが品種に付与され栽培が安定化し、また、トンネル・べたがけ・マルチなどの保温資材を取り入れることにより、以前よりも多収となり圃場面積当りの出荷量も増加してきました。

このような中で産地間競争が厳しくなり、より市場性が高い高品質なダイコンが求められるようになっていきます。青果用としては量販店などに向けて青首がきれいで肌に光沢があり、限りなく秋ダイコンの品質に近いものが求められています。

栽培面からすると慣行の品種では、産地固有の栽培管理体系に合いづらい場合があります(特に一般地を中心とするトンネル栽培)、同時に高品質感のある品種が求められていました。このよ

うな中で今回、高品質なトンネル用春ダイコンとして『春健太』(試作系統RA240)を発表しましたので、ご紹介致します。

2.『春健太』の品質特性

1) 抽苔性

抽苔は高品質タイプとしては遅いほうでトンネルの適期播きからの播種が可能です。

2) 葉の生育

- ・葉は完全な黒葉ではなく、若干緑色を呈したやや濃緑色です。
- ・トンネル栽培で葉がおとなしいのが特徴で、葉がトンネルビニールに当たる心配がありません。

3) 根の生育

- ・根長33~37cm、根径7.0~7.5cm、根重1.3~1.5kgの

若干短めでボリューム感のある根形に仕上がります。

- ・根長、根形の揃いが非常に良く、特に曲がりが出にくいのが特徴です。
- ・根の太りは肥培管理に因りますが概して早太りです。

4) 根の品質

- ・青首はやや濃いほうで鮮明です。肌が非常にきれいで洗い上がりが大変美しいのが特徴です。
- ・す入りは非常に遅く安定しています。
- ・肉質はシャリ感、甘みとも良好でサラダ、煮物などで美味しく食べられます。
- ・根と葉のバランスが良く、レギュラー出荷はもちろん葉付き出荷にも適します。



根長・根形のそろいが優れる『春健太』



収穫期をむかえた『春健太』



初期生育を促進させる管理に向く『春健太』

『春健太』の適作型

●○: 播種期 ■: 収穫期

	1月	2月	3月	4月	5月
一般地		●○	●○		■
暖地	●○	●○		■	

地域に因りますが、トンネルべたがけマルチ栽培を基準として下さい。

3. 『春健太』の適作型と栽培のポイント

一般地、暖地

- ①播種～初期生育時は厳寒期にあたるためトンネルは密閉とし十分に保温して下さい。初期生育がおとなしく開張性なので、べたがけ保温資材などを使ってしっかりと保温し生育を促進させて下さい。保温不足では抽苔や短根の原因となります。
- ②慣行品種では早春の強風や手間不足のため換気ができなくなった場合、葉が茂って根の品質が低下し曲がり

が発生することがありましたが、本品種はこのような管理でも生育中期から速やかに立性となるため葉と根のバランスが良く、揃いの良い生育となります。

- ③抽根が始まる生育中期から葉が立性となり、根の肥大と抽根の伸長が始まりますので、徐々に換気を強めて行きます。
- ④生育の中期～後半以降に葉がしっかりできたのを確認してからビニールを除去します。
- ⑤施肥量は慣行の品種よりやや多めで

適期播きでN-P-K=8～10-15-10 kg /10aを目安にして下さい。

4. むすび

『春健太』の紹介を致しましたが、本品種の特性を良く理解頂き、高品質、安定生産に取り組んでもらえればと思います。



生育中期に抽根し、葉が立性となる『春健太』



青首・肌が美しい『春健太』